

## 市民ワークショップ「みどりのまちづくりワークショップ」開催結果

## 1. 開催概要

## 【目的】

市民に市内のみどりの現況と課題、将来像を周知し、意識醸成を図るとともに、みどりに関する具体的な行動を促す。

みどりに対する市民の意見を収集し、計画に反映する。

【開催日時】 令和2年7月21日（火） 10：00～12：00

【場所】 萌え木ホールA会議室

【参加者】 市民12名 ※椿副委員長、福嶋委員、鳥羽委員含む

## 【当日のタイムスケジュール】

○挨拶（5分）

①全体説明（15分）

②意見交換前半～みどりと暮らしのあり方を考える～（40分） ※導入説明、自己紹介含む

○休憩（10分）

③意見交換後半～みどりと暮らしを両立させる方策を考える～（30分）

④全体発表（15分）

○閉会（5分）

## 【意見交換～全体発表の進め方】

- ・前半、後半とも6名ずつ2グループに分かれて実施。
- ・前半では、3つの事例写真を題材に、みどりと暮らしのあり方、どんなみどりの姿が望ましいか意見交換。
- ・後半では、前半の結果を踏まえ、理想的なみどりを保全・創出していくためにやるべきこと、できることについて意見交換。
- ・主に後半の成果について、グループの代表者（参加者より選出）から全体発表。

## 2. 結果概要

各グループの意見交換結果から全体を総括すると下記のとおりとなる。

なお、各グループの意見交換の様子や意見交換結果、意見一覧は次ページ以降に示した。

### ◆意見交換前半～みどりと暮らしのあり方を考える～

- ・みどりのあり方は、役割や規模によって変わるため、一概には言えない
- ・都市部のみどりは、安全性や快適さの確保が求められ、どんなみどりも手入れが重要

#### みどりに期待する機能の具体例

- ・生物多様性
- ・CO2削減やヒートアイランド現象の緩和
- ・緑陰
- ・景観
- ・小金井のシンボル

#### みどりの管理に関する課題認識、アイデア

- ・市民も管理に参加してもらう
- ・近隣住民と話し合い、協力してもらう
- ・みどりのメリットを市民に理解してもらう
- ・管理コストを考慮して樹種選定をする

### ◆意見交換後半～みどりと暮らしを両立させる方策を考える～

より良いみどりとするために…

- ・行政と市民で協力体制を構築し、役割分担できると良い
- ・みどりを管理するための仲間を増やすことが重要
- ・議論や活動の場づくりとあわせて、積極的な情報発信も重要

#### 市民協働のあり方

- ・行政と市民が一緒に考える場が必要
- ・梶野公園サポーター会議の市全体版をつくる
- ・市民協働は重要だが、整備・管理方針や活動ルール等がある程度決めておく必要がある

#### 仲間を増やすアイデア

##### 【若者・子ども向け】

- ・餅つきやそうめん流しなど、イベントと合わせてボランティア活動を実施する
- ・学校でみどりの管理を学ぶ機会を設けるなど、子どもの頃にみどりを大事にする心を育てる

##### 【新住民向け】

- ・開発事業者を通じたコミュニティづくりを促す

#### 情報発信のアイデア

- ・参加者募集のチラシを配る
- ・市報や市HP以外に、SNS（FacebookやTwitterなど）を活用する

### 3. 意見交換～全体発表の様子

	Aグループ	Bグループ
前半		
後半		
全体発表		

#### 4. 意見交換結果

##### <Aグループ前半>



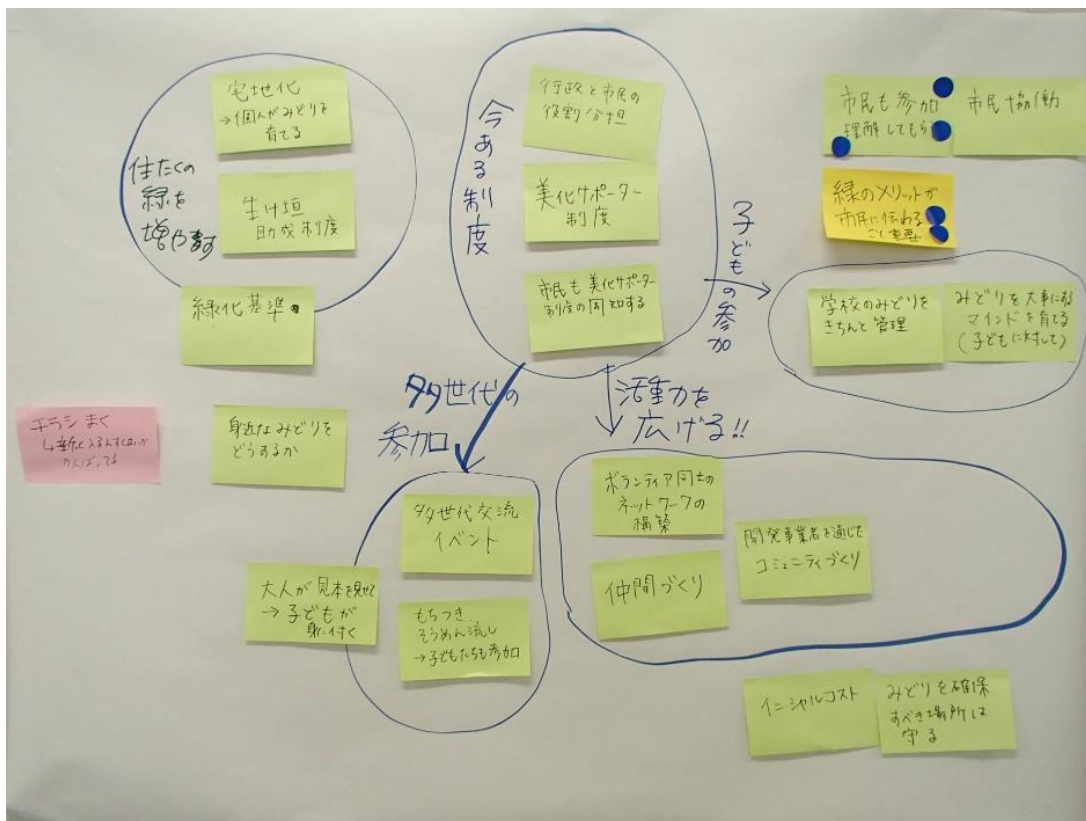
##### <Bグループ前半>



<Aグループ後半>



<Bグループ後半>



## 5. 意見一覧

### 意見交換前半～みどりと暮らしのあり方を考える～

#### <Aグループ>

事例①街路樹	
	街路樹には木陰が欲しい。
	ハナミズキは日陰がないので、街路樹に向かない。夏場は日陰がほしい。
	管理のコストが高いのであれば、樹種を予め選定すべき。
	落ち葉管理については常緑樹を選定すればコストカットできるのでは。
	緑陰は必要だが、見通しが悪いのは困る。交通安全のために見通しは確保すべき。
	管理コストを考慮すれば、ケヤキはヤマボウシ（ハナミズキ）などの樹高が高くないものを選定すべき。
	樹高の高いものを選ぶから安全上の問題が生じる。中木にすればよい。
	幅員に応じた樹種選定が必要である。
	そもそも電線を地中化すれば安全上の問題は生じないのでは。
	サクラの樹木はインコがサクラの実をたくさん食べてしまうため、外来種が増える要因の一つとなっている。
事例②農地	
	最近小金井に移り住んだ人や家を購入した人はアクセス性や利便性だけで選んでいることが多い気がする。緑への関心や連携は少ないと感じている。
	小金井のアイデンティティとして栗林を残してほしい。
	小金井のみどりを不満に思っている人はおそらく少なく、この環境が好きで住んでいる人がほとんど。より身近に緑を感じられる仕組みやみんなでも盛り上げる工夫があると良いのでは。
	農地の近くに住んでいるが、特に悩みはなく、またそういう場所を自分で選択して住んでいるので、納得している。逆に減ってきてしまってるので守って欲しい。
	農地に隣接する場所に住んだことがあったが、ホコリが多かった。木があったほうが防げる。
	農地も生物多様性の観点をもつべきではないか。
	管理のお金がないのであれば、児童遊園等の手入れを民間で行うなど工夫は可能である。
事例③社寺林	
	落ち葉の量がすごい。神社の方がいつもはいているが、近くの家に住む人はどう思っているか。近隣の方と協力が必要なのでは。
	樹木が大きいので、日当たりは悪い。
その他	
	コロナ禍においても公園での活動をきっかけに外に出たり、交流が生まれている。
	公園での活動はコロナで外出自粛しているときに、ストレス発散として非常に有効であった。
	野川の草刈りが6月されてない。

## <Bグループ>

緑って重要
緑の役割によってあり方も変わる。
みどりは生活のうるおいだと思う。
CO2削減やヒートアイランド現象の緩和などの機能が大切だと思う。
みどりの景観が良いことが重要ではないか。
生態系を勉強していたので、生物という観点も大切と思う。
市民と行政のつながりを強める。
どんな緑がどのくらいあれば良いのか。難しい。
みどりの用途によってどんなみどりが良いかは変わる。
どんな量があればよい？というのは難しい。
大きな緑、中くらい、小さな緑という規模で考えると良いのではないか。
小金井公園などの大きな緑は魅力的だと思う。
だれが？
農地や社寺林は私権のみどりだが、これに対して意見できるのだろうか。
都市の緑ちゃんと管理すること大事！
みどりの手入れが行き届いているべき。
野川も手入れがされていないような草が繁茂した状態では、子どもも行きたくないと思う。自然とはいえ利用のための管理が必要。
都市部のみどりというのは、やはり管理しなくてはいけない。
草が繁茂していたりして、みどりにマイナスのイメージがあるのをプラスにする努力が求められる。これは人任せでなく市民もやるべきこと。
誰が管理するか？利益をうける人が管理するべき。
自分の活動している公園で花壇を手入れしているが、幼児も遊びに来ては花をみて癒されている。こういったみどりは大切にしたい。ボランティアと行政がつながって協力して管理できると良い。
市民も管理に参加して理解してもらうことが大事。
市民参加ではなく、市民協働である。市民が企画段階から参加するべき。
みどりはできるだけ残したい。しかし、落ち葉の問題などがある場合、地域ごとでどうすべきか決める必要がある。何が良いかは一概に言えないので、最終的には地域の問題ではないか。
苦情が出ないようにするためにも、みどりのメリットをきちんと市民が理解することも重要。

## 意見交換後半～みどりと暮らしを両立させる方策を考える～

### <Aグループ>

行政の役割	
	都立公園や都が管理するものにも協働ができるように、まずは市と都等、行政間で連携をとることが重要。
	ボランティアと行政でお互いにコミュニケーションを図り、一緒に考えられる体制づくり。 (こういう樹木を植えてほしい等顔が見えるやり取り等)
	協働を幅広く募っていくためには、市民からたたき上げていくのは難しい。最初はある程度市による旗振りも必要では。
	今回のWSのような機会はあまり知られておらず、既に取り組んでいる人がほとんどで、知り合いづてで参加するパターンがほとんど。Twitter以外にも情報伝達手段としてFacebook等SNSを活用すべき。
協働の進め方	
	苦情という形で市と市民を対立構造でとらえるのではなく、一緒に考え、公園やみどりを良いものにしていくことが大事。また、そのような一緒に考えられるプラットフォームが必要。
	今日のような市全体のみどりについて考える機会をつくる。梶野公園サポーター会議のようなものができるのでは。
	議論の場を設けた上で、参加者のやりたいことに応じて、分委会等具体的に検討する場があっても良い。
	協働や幅広く巻き込むことは重要だが、例えば、花壇整備や植栽を好き勝手やるのではなく、外来種の移入には注意するなど、ある程度の専門性は必要なことには留意すべき。
	例えば、浴恩館公園には希少な植物があり、そこに好きな植物を植えるのは問題がある。協働を進めるゾーン設定などが必要なのでは。また、あくまでも公共空間であるため、公園の私物化が起きないように注意が必要。
協働や議論を進めるために必要なこと	
	市のみどりについて話す場、継続的に議論する場が必要。
	緑の基本計画や今回のWSも広報が不十分。適切な形で情報発信を行い、関心を持ってもらうことが重要。
	議論や活動の機会があっても市報やHPだけではわからない。広報・PRの方法が重要。
	SNS (Facebook・Twitter等) による積極的な発信が必要。



## <Bグループ>

今ある管理制度の活用	
	行政と市民の役割分担ができていると良い。
	美化サポーター制度は落ち葉管理や草取りなど、やり方を自分たちで考えてやっている。まさに地域ごとに考えた管理ができる。
	美化サポーターを増やすため、まずは周知することが重要。
活動を広げる	
	ボランティア同士のネットワークの構築をするべき。
	浴恩館公園では、美化サポーターと別に浴恩館の仲間たちという若い人のグループがあり餅つきなどイベントをしている。こういったグループと美化サポーターが交流する機会があるが、こういう交流がもっとできるとよいのではないか。
	なるべく参加が増えるように、ボランティア参加者募集のチラシを配っている。新しく入る人が少ないが、地道な活動を頑張ってるのが実情である。
	ボランティアの高齢化が進んでいる。若い人にも参加してほしい。昔は落ち葉掃きなども学童の子どもが参加していたが、今は学童が委託になりなかなか子どもが参加できなくなった。
	若い人の参加は地域性がある。古くからの町では町内会などでつながりができやすいが、新興住宅だとコミュニティが希薄である。こういう場所では開発事業者を通じたコミュニティづくりがあってもよい。
	みどりの管理をするための仲間づくりをする。
子どもの参加	
	子どもが学校のみどりをきちんと管理する習慣をつけるべき。
	子どもの頃にみどりを大事にするマインドを育てることが大切。
	子どもにやらせるだけでなく、まず大人が見本を見せて、子どもの身につくという流れが必要。
多世代の参加	
	ボランティア活動も、餅つき、そうめん流しなどと合わせてやると、子どもたちも参加しやすい。
	多世代交流イベントと管理が結びつくとう若い人など広がるのでは。
みどり確保のために	
	身近なみどりをどうするか考える。
	みどりはイニシャルコストがかかるということを理解して整備する必要がある。
	みどりを確保すべき場所は守るなどのメリハリも必要。
住宅の緑を増やす	
	宅地化が進む中、住宅のみどりは重要。みどりを確保するためには個人がみどりを育てるようにするべき。
	生け垣助成制度が利用されるようにすること重要である。
	みどりを確保するためには、緑化基準を定めて緑化を義務付けることも必要ではないか。